

# 北海道ライラック観測網 —開花日の栽培品種による違い—

船越 三朗

## はじめに

「ライラックの開花を観察することで冬から春への季節変化を調べよう」というカナダ, アルバータ大学デヴォニアン植物園の呼びかけに応じて 1996 年から観察し始めた。複数観察地での三年間の試行を経て, 1999 年に「北海道ライラック観測網」を発足させた(2,3)。それ以来今年まで北海道各地の参加者の協力を得て継続している。参加者には統一した観察基準に基づいて「開花日」と「満開日」を決定し, 観測網事務局に報告をお願いした。事務局は開花記録を北海道大学フィールド科学センター森林圏ステーションのホームページに掲載した(<http://forest.fsc.hokudai.ac.jp/~project/lilac/lilac-01.htm>)。

デヴォニアン植物園が提起した観察基準は以下である([http://plantwatch.sunsite.ualberta.ca/plants/com\\_lil.php#How%20to%20Observe](http://plantwatch.sunsite.ualberta.ca/plants/com_lil.php#How%20to%20Observe))。

観察株の選定:

- 1) 株は健全に管理されており, その場所で継続して観察できる。
- 2) 株は建物や他の庭木の日陰になっていない。
- 3) 花は紫色である。

開花観察項目:

- 1) 開花日(First bloom); ライラックはたくさん的小花からなる長い円錐花房をつける。小花が一つ咲いた花房を「開花花房」とし, その数が観察株につく全花房数の50%以上になった日を株の「開花日」とする。
- 2) 満開日(Full bloom); 小花は花房の基部から頂部へと咲き上がる。最上部まで咲いたら「満開花房」とし, その数が全花房数の95%以上になった日を株の「満開日」とする。

ただし, 「北海道ライラック観測網」の参加者には一

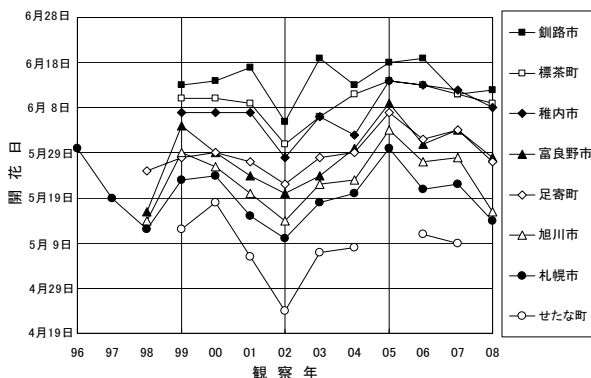


図-1 13年間の「開花日」変化

株に 20 花房を任意に選び, 標識をつけて毎日観察することをお願いした。

同一株を継続観察しているとおもわれる開花記録の「開花日」を用いて 13 年間の開花変化を図-1 に示した。この間, 北海道各地の「開花日」は早くなったり, 遅くなったりしており, ライラックの開花が早まっているとは言えない(4)。

観測網発足以来, 参加者から寄せられた質問は 1. 一株に 20 花房を標識して観察することの意義。2. 観察株に着く花房数は年ごとに変動する。毎年一定数を着けるにはどう管理したら良いのか。3. 観察株として紫色の株が選ばれている。しかし, 紫色のライラックの中にもいくつかの栽培品種(以下品種とする)があり, 品種間で開花特性が違う可能性がある。という三点にまとめられる。

一点目については, 一株に 20 花房を抽出して実施した観察結果は株全体の開花を代表することを報告した(5)。二点目は同一株の連続した開花記録を得るために重要な問題である。栽培経験をたくさん集積している札幌市内の公園管理者や造園業者に相談して得た知識をメールリストで観察者に通知し, 情報を共有した。

今回は三点目のライラック栽培品種による開花日の違いについて報告する。

## 材料と方法

札幌市川下公園(同市白石区)の「ライラック園」にはムラサキハシドイ(フレンチ ライラックと同意: *Syringa vulgaris* Linn.)の栽培品種が 140 種類収集されている(<http://www.sapporo-park.or.jp/kawasimo/annai/lilac/lilac1.html>)。それらから 5 品種 9 株を選び, 2002 年から 2008 年まで開花を観察した。

1. マーシャル・フォック (Marechal Foch: MF とする) 2 株
2. チャールズ・ジョリー (Charles Joly: CJ とする) 2 株
3. センセーション (Sensation: Sn とする) 2 株
4. オグニ・モスクヴィ (Ogni Moskvyy: OM とする) 2 株
5. ヴェスパー (Vesper: Vp とする) 1 株

MF と CJ は早咲き品種, Sn は中咲き品種, OM と Vp は遅咲き品種として選んだ。Fiala によるとこれら品種の花の色は, MF が赤みがかったピンク (Reddish-pink), CJ が紫色 (Purple), Sn が紫色, OM が紫がかったすみれ色 (Purple-violet), Vp が紫色とされている(1)。

観察株の東西南北面から 5 花房ずつ, 合計 20 花房を任意に選び標識した。毎日一定時間に開花花房数を記録し, 「はじめに」に書いた手順で「開花日」を決定した。2002 年から 2005 年までは 6 時ごろ, 2006 年から 2008 年までは 16 時ごろに観察した。

**結果と考察**

観察結果を図-2,3 に示す。図-2 は同一観察年における品種間の開花経過の違いを示し、図-3 は品種の開花経

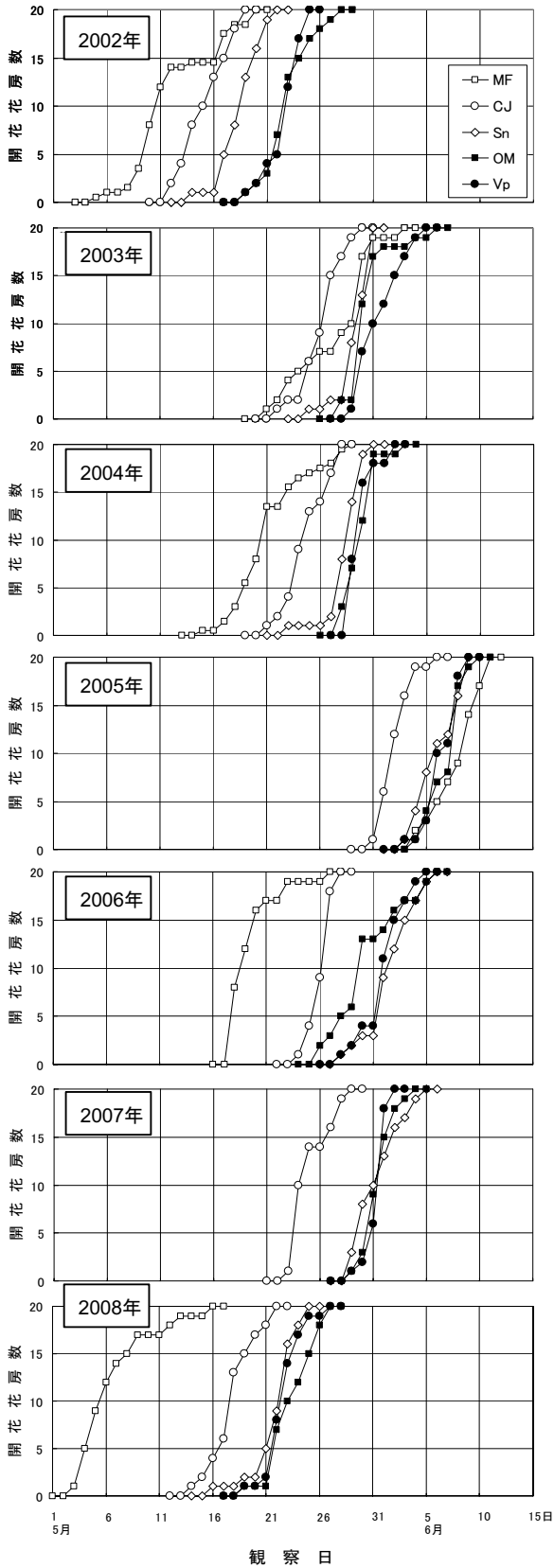


図-2 観察年ごとの栽培品種開花経過

過が 2002 年から 2008 年の間どのように変化したかを示す。横軸に観察日を取り、縦軸に開花した花房の累計をとった。観察株を二本選んだ品種で、一観察年に二本の開花記録が得られた場合、その平均値を使用した。

図-2 によると 2002 年と 2008 年は春の訪れが早く、早咲き品種、中咲き品種、遅咲き品種の順番に開花が進行した。2005 年は春の遅い年で、早咲き品種が遅咲き品種より遅く開花し、咲く順番は乱れた。品種が開花する順番は毎年決まっているものと推定していたがこの七年間の結果はそのようではなかった。

MF は 2002, 2004, 2006, 2008 年に 5 品の中で一番早く咲いたが、2003, 2005 年はそうではなく、とりわけ 2005 年には遅咲き品種 OM, Vp より遅かった。MF がなぜこのような開花結果を示したかは今のところわからない。今後の観察を通して解明したい。なお、MF は 2007 年には二本とも着花しなかった。この理由も不明である。

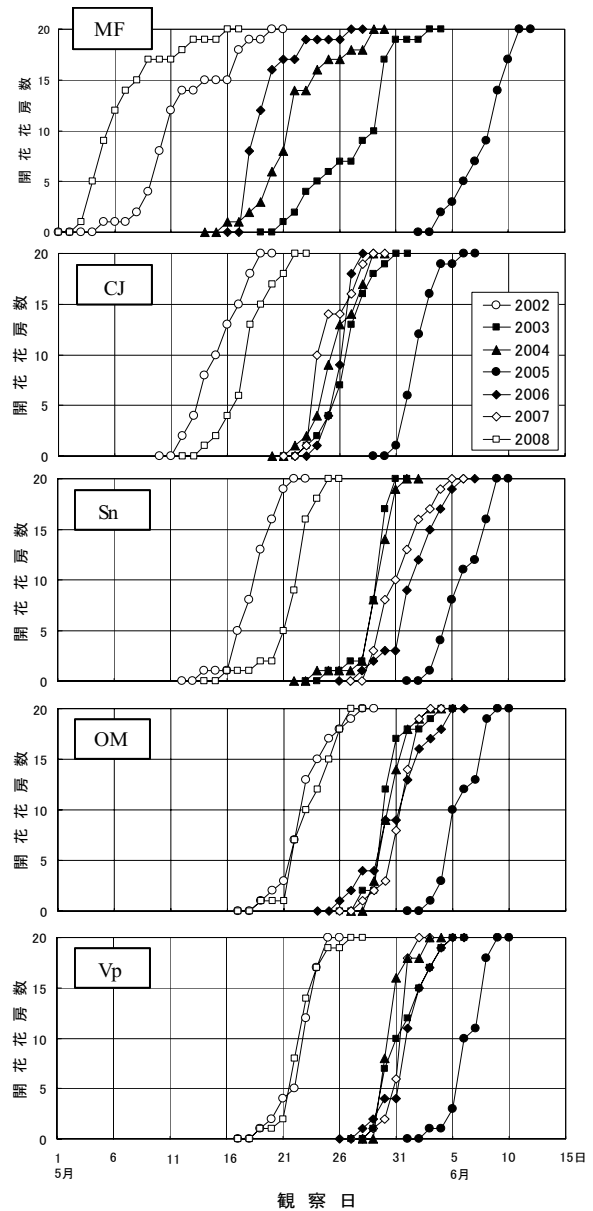


図-3 栽培品種ごとの開花経年変化

CJ の咲き始めは二番目,すべての観察花房が開花した日もおおむね二番目と安定していた。Sn の咲き始めは三番目であったがゆっくりと咲き進み,すべての観察花房が開花した日は遅咲き品種と一緒にあった年が多かった。OM と Vp は毎年最後に咲き始め,すべての観察花房が咲ききるのも最後の年が多かった。

春が早い年は5品種すべての開花時期が早まる。早咲き品種の対応は素早く,遅咲き品種のそれは鈍い。反対に春の遅い年にはすべての品種の開花が遅くなる。

表-1 に「開花日」を品種,観察年ごとに示した。図-2,3 の開花曲線上に印づけしなかったが,「開花日」は各曲線の開花数房数が10以上になった日に一致する。

表-1 栽培品種と開花日

栽培品種	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
MF	5月11日	5月29日	5月21日	6月9日	5月19日	-	5月6日
CJ	5月15日	5月27日	5月25日	6月2日	5月27日	5月24日	5月18日
Sn	5月19日	5月30日	5月29日	6月6日	6月2日	5月31日	5月23日
OM	5月23日	5月30日	5月30日	6月5日	6月1日	6月1日	5月23日
Vp	5月23日	5月31日	5月30日	6月6日	6月1日	6月1日	5月23日

図-3 によれば, MF は6観察年の曲線が横軸いっぱい描かれている。最も早かった2008年の「開花日」と遅かった2005年のそれとの差を表-1から計算すると34日である。CJ, Sn, OM, Snについてその差を2002年と2005年の値から計算すると, CJ, Snでは18日, OMでは13日, Vpでは12日である。早咲きの品種ではその差が大きく,遅咲き品種になるほどその差は小さい。これは春が早い年の開花の早まり方が早咲き品種ほど大きいことによると考えられる。早咲き品種 MF の早い春への対応は敏感で, CJ, Sn, OM, Vp の対応は MF ほど敏感ではないといえる。

### おわりに

わずか5品種の観察結果であるがムラサキハシドイの栽培品種はその開花習性が多様であることがわかった。

アルバータ大学生物科学科が運営する"Plantwatch" ([http://plantwatch.sunsite.ualberta.ca/plants/com\\_](http://plantwatch.sunsite.ualberta.ca/plants/com_)

[lil.php#Horticulture%20\(Use%20in%20the%20Garden\)](http://lil.php#Horticulture%20(Use%20in%20the%20Garden)) は観測網参加者に観察対象品種としてチャールズ・ジョリーを推奨している。今回の観察結果からもこの品種が毎年早く咲き,かつ咲き始めから咲ききるまでに要する日数が短く,観察に適した品種であるといえる。

遅咲き品種のオグニ・モスクヴィとヴェスパーは遅く咲き始めるが短い日数で咲ききる。たくさんの方が観察に携わる観測網には好都合な性質である。道東の陸別町,オホーツク海沿いの枝幸町ではライラックが育たないと言われている。こうした場所に遅咲き品種がどう対応するかを検定するのも興味深い。

早咲き品種であるマーシャル・フォックは暖かい春,寒い春への対応の仕方がほかの品種とは大きく異なるので観察対象としては不向きである。しかし,その開花習性には興味を覚える点が多いので観察を継続し,開花記録を集積する必要がある。また中咲き品種センセーションもマーシャル・フォックと同様に統一観察対象としては不向きである。

「北海道ライラック観測網」は宮城県,群馬県に協力者を得て本州へと広がり始めた。観察品種を絞り込み,観察基準を徹底して開花情報を公開,共有すれば市民参加による「ライラック観測網」が日本全体を覆うことも可能である。

札幌市川下公園でのライラック栽培品種観察にあたっては同園職員のみなさんからたくさんのご配慮とご協力をいただきました。お礼申し上げます。

### 引用文献

- (1)Fiala J.L. (1988) Lilacs: The Genus Syringa, Timber Press, 253pp.
- (2)船越三朗 (2003) ライラック観測網(1). 北方林業 55:73-76
- (3)船越三朗 (2003) ライラック観測網(2). 北方林業 55:108-111
- (4)船越三朗 (2008) ライラック開花観測市民ネットワークから見た温暖化. 北海道土壌肥料研究通信 55:11-20
- (5)船越三朗・松本太 (2007) 北海道ライラック観測網: 観察花房の選び方. 日林北支論 55: 73-76